

伝統園芸作物「ノハナショウブ」に関する研究

Keyword：花、花菖蒲、自然保護、江戸文化

研究の概要

花菖蒲の原種の多様性を知る！

2016年10月に静岡大学に「園芸イノベーション学研究室」という新しい研究室を立ち上げました。

前任地の弘前大学では地域に多数存在するノハナショウブの自生地調査を行い、多数の変異系統の存在を明らかにしました。

静岡大学でも県内外の自生地の保護や調査はもちろんのこと、花菖蒲品種の新品種開発や病害抵抗性導入にノハナショウブが利用できないか研究したいと考えています。

花菖蒲の利用を考えている地域の皆さんと共同研究を行うことを目指しています。



バイオ・サイエンス

アピールポイント

・特筆すべき研究ポイント：

100か所以上のノハナショウブ自生地を発見、調査し、形質を把握しています。
葉のサンプリングを行い自生地間の類縁関係等の調査を行う準備を進めています

・新規研究要素：

数少ない日本起源の園芸作物資源の研究です。
科学のみならず地域の歴史や民俗との関係も調査できます。

・従来技術との差別化要素・優位性：

青森県八戸市の種差海岸では、東日本大震災の津波被害を受けた地域の回復に地元の自然保護団体と共に取り組みました。



松本 和浩

学術院融合・グローバル領域
准教授

■ 技術相談に応じられる関連分野

- ・野生植物の保護や活用に関すること
- ・野生植物のグリーンツーリズムなどへの利用に関すること
- ・自生地のかく乱の防止に関すること
- ・湿地の植生の保全や回復に関すること

■ その他の研究紹介

- ・シンテッポウユリの発芽不揃いの防止に関する研究
- ・ウメの障害化発生のメカニズムと発生防止技術に関する研究
- ・ニホンナンの耐凍性の向上に関する研究
- ・リンゴの新品種開発に関する研究